



# 大樹のこころ

## 学校診断アンケート

毎年行っている学校診断アンケートの結果が出ました。本号では、アンケート結果から見えた本校の良さや課題について綴りたいと思います。

児童を対象としたアンケートにおいて、18項目中17項目で「良く当てはまる」「当てはまる」と好意的な回答が90%を超えました。これは驚異的な数字だと思います。昨年度に比べ特に大きく割合を伸ばしたのが「授業やチームでは進んで意見や感想を言っている」の項目です。昨年度比何と10%も伸びました。本校は令和7年度の研究発表会に向けて、全員参加型の授業を目指しています。保護者アンケートでも「子供が授業が分かりやすいと言っている」という項目が、令和4年度に比べて5%もアップしています。本校の授業改善が軌道に乗ってきていると捉えています。



子供のアンケートで、「苦しいことも我慢してやるようにしている」という項目で、前年度比5%増という結果が出ました。昨今、嫌なことや苦手なことを避けようとする風潮が見られる中で、本校の児童は頑張っていると感じました。「挨拶や返事がきちんとできる」という項目も3%の伸びが見られました。昨年度の4月、自分が本校に赴任した時には、多くの子供が挨拶をしてくれませんでした。しかし「家康プロジェクト」を立ち上げ、挨拶・机上無一物・スリッパの整頓・授業参加・雑巾ばさみに取り組んでいった成果が「苦しいことも我慢」や「挨拶をする」といった姿勢につながっていったのではと思っています。また「私の学校や町のことが好きで大切に思っている」でも、前年度比3%増となりました。これは大河ドラマ「どうする家康」や本校独自の「家康学習」が大きく影響していると考えています。大河ドラマは終わりましたが、伝統の「家康学習」をより一層大切にしていきたいです。



保護者のアンケートで嬉しかったのが「悩んだり困ったりしたとき先生に相談できる」の項目が、実に7%も伸びたことです。子供の成長を願うときに、学校と家庭との連携は欠かせません。このような好意的な回答をいただき、教職員一同ますます意欲を高めています。同じく「先生は、子供の能力や意欲を適切に判断し、認めてくれている」という点も3%増となりました。一方で「学校は地震や風水害の場合の対応について子供や保護者に分かりやすく伝えている」の項目が、昨年度比3%減となりました。昨年の6月に大きな豪雨災害があったり下校時間に雷注意報が発令されたりしました。その際の対応が保護者の皆様に不安を与えることになったと反省しています。本校は周囲の交通事情を鑑みると、緊急時に車でのお迎えが難しいのが現状です。そのあたりも踏まえて、大きな混乱を起こさないような対応を検討しているところです。



アンケートの結果に一喜一憂することなく、より良い学校づくりを目指して頑張っていきます。アンケートの詳細につきましては2月21日(水)にお伝えします。ご協力ありがとうございました。